

写真でたどるくらしの歴史

新編立川市史編さん事業では、『資料編 写真集』の令和5年度末刊行に向け、現在資料の収集を進めています。今回の特集では、写真が持つ資料としての側面についての解説と、収集方法や実際の調査の流れを紹介します。

歴史資料—記録と記憶

一葉の写真には、その写真が撮影された瞬間の街並みや、人びとのくらしが、ありのまま「記録」されています。さらに、そのありのままの姿は、見た人の思い出や感情などの「記憶」を呼び起こすきっかけにもなります。その「記憶」からは、地域の思いがけない歴史が浮かび上がることも珍しくありません。

歴史研究では、写真のこのような特性に着目しながら、より多様な視点から人々の生活の営みを探っていきます。

「記録」と「記憶」のつながり

・大規模な催事や印象的な出来事から呼び起こされる個人の思い出



・個人的な記念や地域の記録を収集することで形づくられる記憶



資料としての写真—写真のどこに注目するか

写真技術が日本に入ってきた幕末から明治にかけては、カメラ（写真機）は高価で貴重だったため、撮影する機会が限られていました。そのため、写真は古ければそれだけで歴史資料として扱われます。カメラが広く普及した昭和から現在でも写真は歴史資料になりえますが、その点数は膨大であり、全てを資料として扱うことはできません。ここでは、市史編さん係が調査の際に注目しているポイントを紹介します。

撮影のきっかけ

- ・記録
- ・記念
- ・趣味
- ・気まぐれ（余ったフィルムの消費など）

確認や証拠のために撮影されたものや、行事の記念に撮影されたもの、撮影者の美的感覚で撮影されたもの、公私問わず、撮影のきっかけは様々です。たまたま撮影した何気ない写真の中にも、重要な情報が隠れている可能性があります。



特別なきっかけでなくても、何気ない日常の風景に重要な情報が残されていることがあります。

写真に写りこむ情報

- ・人、服装
- ・風景
- ・建物
- ・文字情報（看板など）

写真に写りこむものには、意図して撮影したものと偶然写りこんだものの二通りあります。撮影者が記録したかったものが重要なこともあれば、背景にたまたま写りこんだものが重要なこともあります。

また、文字情報があれば他の資料と組み合わせることでより詳しい情報を得ることが可能です。



すでに資料として活用されている写真には、家族や職場・学校での集合写真、お祝いの席での食事風景、昔の街並みなどがあります。



写真にまつわるエピソード

撮影のきっかけと被写体を含めた、写真にまつわるエピソードを所有者の方にお聞きします。当時の時代背景や思い出を収集することで、記録に残りにくい、人々の記憶にひもづいた歴史を調べます。

写真は、文字だけでは伝えきれない多くの情報を克明に残すことができます。気づかいうちに刻々と移り変わる「現在」を、視覚的に記録できるのが写真資料の強みです。

写真収集・調査の流れ

市史編さん事業では、これまで市で集めてきた写真資料の再整理・再調査と、新たな写真資料の発見を目標としています。ここからは、写真資料を見つけるためのおおまかな調査の概要を解説します。

調査の準備

● 目的の設定

まず、市史編さんは市の歴史を調査するのが目的なので、調査の対象も「立川市内」か「立川に関係する個人、機関など」に限られます。その中で特定の時代・地域・組織・できごとなどの条件を設定し、調査へと進んでいきます。

● 事前調査

実際に調査に入る前に、どこへ調査に行くべきか検討します。公的な機関で情報収集することもあれば、個人や団体からの紹介を経て調査に向かうこともあります。調査の目的ごとに調査手順や写真にまつわる質問を検討します。

調査先の例

- ・立川市所蔵の公文書の調査（広報、お祭りやイベント運営、都市開発、防災関係など）
- ・企業、個人商店、商工会などの商業関係
- ・自治会、婦人会、文化芸能保存会などの市民団体関係

調査の実施

調査の目処が立ったら、対象となる個人・団体への調査依頼を出します。調査の趣旨を説明し、ご了解いただけた場合、ご希望の時間と場所（ご自宅、施設など）で調査を実施します。

内容の確認

写真について、前ページに示したような情報があるかどうかその場で確認します。整理を進める中で、後日改めてお話をうかがう場合もあります。

権利の確認

撮影したのがご本人かご家族か、今後の連絡先をどうするかなど、写真の権利について確認します。

利用の確認

刊行物への掲載許可や、掲載時に所有者のお名前を併記するなど、写真の利用の詳細を確認します。

借用書または寄贈申し込み書の作成、取り交わし

資料を借用する、または寄贈を受ける場合、必要事項を記入した書類を作成します。その際控えを作成し、双方に情報が残るようにします。



調査の際、写真の内容を確認しながら、撮影された時期や場所、当時の状況などをお聞きします。また、関連する他の資料（文書や冊子、刊行物など）がないかお尋ねする場合があります。

調査後—整理・管理

資料の整理・返却

写真の状態を確認し、複写（撮影・スキャニング）します。借用の場合、資料を速やかに返却します。

目録の作成

資料提供者ごとに目録を作成します。

掲載承諾

実際に刊行物に掲載する前に、改めて資料を掲載してよいか資料提供者に確認します。

公開、献本

調査にご協力いただいた方々には刊行された書籍をお配りして、どのように資料が活用されたかご確認いただいています。

『資料編 写真集』の役割

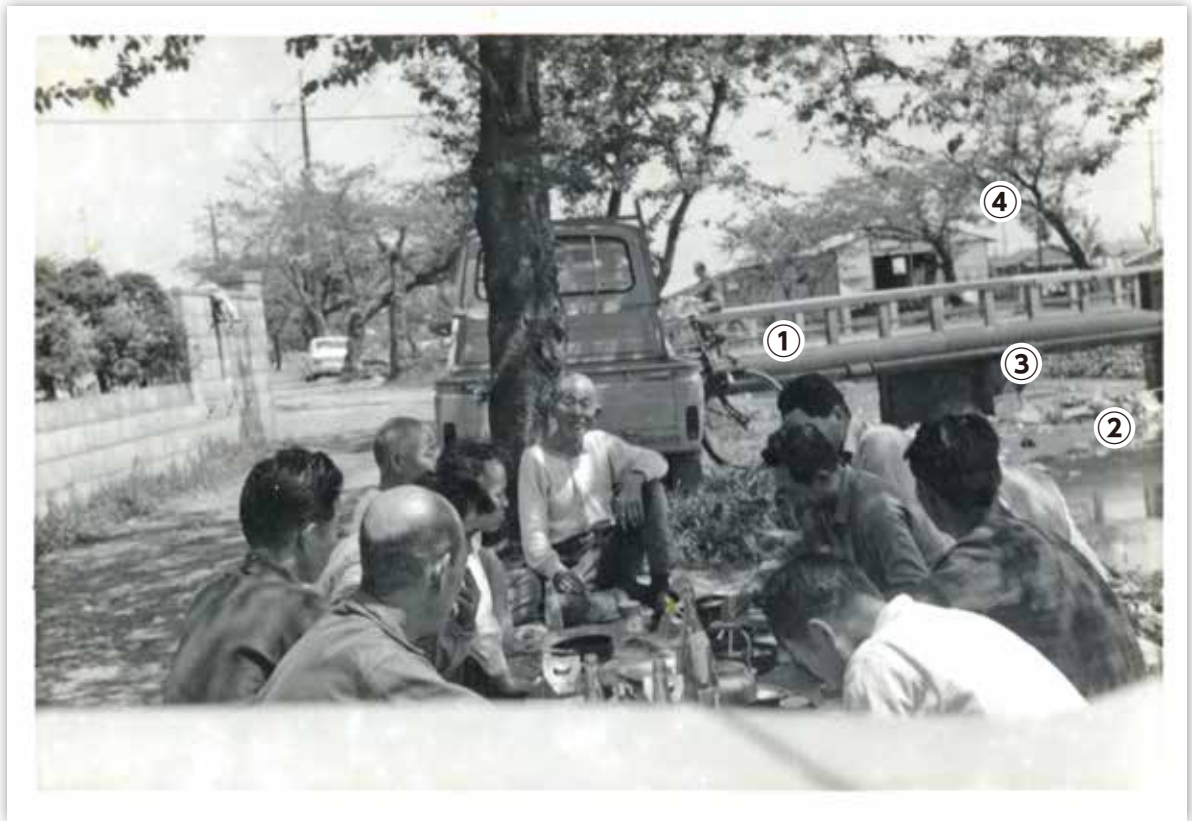
土地開発や交通・通信の発達など、わたしたちの身の回りの変化はめまぐるしいものです。ですが普段はその変化を意識しにくく、一方で事故や災害など、予期せぬ形で変化を強いられることもあります。

『資料編 写真集』では、わたしたちの生活や環境を記録し、より分かりやすくお伝えすることを目指しています。写真資料を読み解くことで歴史をより身近に感じ、立川の特徴や他地域とのちがいを発見するきっかけになればと思います。

写真の読み解き方—根川・琴帯橋周辺の写真を例に—

ここでは、収集した写真からどのようなことがわかるか、他の写真との比較を通じて紹介します。

A-1 根川河畔で休憩するひとびと（撮影：昭和30年前後、錦町 小川司さん提供）



この写真は、市民の方から提供を受けたもので、根川の土手に立つ桜の下で談笑している男性たちを写したものです。

写真に写る桜の葉や土手に生える草の茂り方から、5月頃に撮影されたと推測できます。また、道路を避けて車座になっている男性たちの前には湯飲みや小皿、瓶、ヤカン、寿司桶などが見えます。

ここに注目！

①根川に架かる橋（きんたいばし 琴帯橋）

コンクリート製の橋（昭和9年（1934）竣工）が見える。この橋は柴崎町四・五・六丁目の境になっている。

②川面の様子

橋の手前（上流側）の水面は静かで、流れは緩やかに見える。

③川岸の様子

橋脚の間から見える川岸には、護岸の石積みが見える。

④周辺の様子

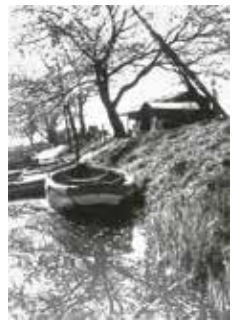
平屋の倉庫のような建物が見える。



根川（現在の根川緑道）

『たちかわ物語』2号で紹介したように、根川は大正時代以降、土手に桜が植えられ、春には花見客で賑わいました。また、昭和20年代までは貸ボート乗り場があり、船着き場には茶店が建つなど、当時から根川は人々にとっての憩いの場でした。

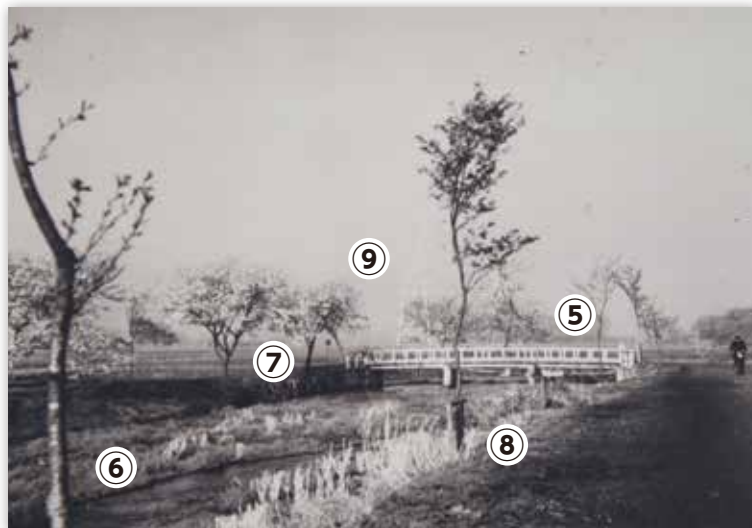
根川の船着き場と茶店（撮影：昭和16年、立川市歴史民俗資料館蔵）▶



写真にまつわるエピソード

提供者によるとこの写真は、昭和30年前後に、根川から近隣の農地に水を引いていた堰や用水路の手入れをした後、休憩しているところを撮影したものだそうです。用水路は、琴帯橋の上流から根川の南側に2本あり、手入れ・清掃作業は、毎年5月1日にそれぞれの用水路を利用するひとびとによって行われていたが、昭和40年代後半に、根川から取水できなくなったことにより、利用されなくなったとのことです。

B 根川に架かる琴帯橋とその周辺（撮影：昭和16年、立川市歴史民俗資料館蔵）

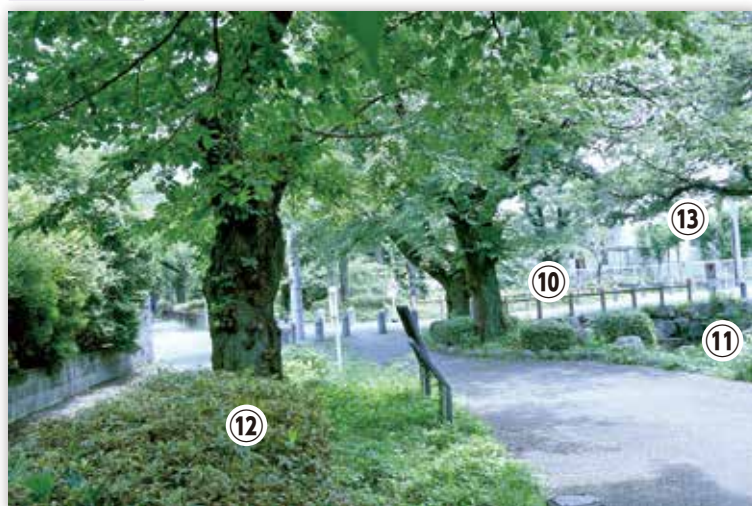


この写真は、A-1の写真より10年以上前に琴帯橋の東側（下流側）から撮影されたもので、市に寄託されています。橋の周辺に写る桜の様子から、4月中旬頃の撮影と推測されます。

ここに注目！

- ⑤根川に架る橋（①に対応）
琴帯橋の欄干や橋脚は変わらないように見える。
- ⑥川面の様子（②に対応）
川は兩岸沿いを流れ、中洲には草が茂っている。
- ⑦川岸の様子（③に対応）
橋台（橋と道路の接合する部分の土台）はコンクリートで固められているものの、まだ護岸の石積みは見られず、土手の斜面には草が茂っている。
- ⑧土手の様子
桜の幹はまだ細く、枝葉も少ない。桜の根元には、風などで倒れたり曲がったりするのを防ぐための補強がされていることから、植えられてからあまり年月がたっていないと思われる。
- ⑨周辺の様子（④に対応）
送電線を支える鉄塔が建っているほかに建造物は見られず、農地が広がっている。

A-2 現在の根川河畔（撮影：令和4年6月、市史編さん係）



この写真は、写真A-1とほぼ同じアングルで現在の様子を市史編さん係が撮影したものです。

根川に流れ込んでいた残堀川は、昭和47年（1972）に洪水対策として、立川橋（琴帯橋の上流部）辺りで流路変更が行われました。立川橋近辺から下流部の根川は廃河川として埋め立てられましたが、現在は根川緑道として整備され、写真のような緑あふれる水辺の遊歩道となっています。

ここに注目！

- ⑩根川に架る橋（①に対応）
根川の埋め立てによって琴帯橋も当時の姿ではなくなり、欄干を模した柵には「琴帯橋跡」、「きんたいはしあと」というプレートがはめ込まれている。
- ⑪川の様子（②に対応）
遊歩道の幅だけ、写真A-1・Bよりも川幅が狭くなっている。
- ⑫川岸の様子（③に対応）
写真A-1で男性たちが座っていたのは、この植え込みの辺りで、茂みと遊歩道の境辺りが、川との境だったと思われる。
- ⑬周辺の様子（④に対応）
琴帯橋のすぐそばまで、建物が建てられている。



琴帯橋跡（撮影：令和4年7月、市史編さん係）▶

おわりに

ここでは、これまでに市民の方から提供していただいた写真から、撮影当時の様子を探るとともに、前後の時代に撮影された同じ地域の写真と比較することで、風景の移り変わりを見てきました。こうした写真のひとつひとつが地域の歴史や風景の変化を物語る資料になります。また、そうした古い写真にまつわる思い出話、体験談も貴重な情報になります。

市史編さん事業では、このような昔懐かしい立川・砂川の風景や建物、暮らしの様子などが分かる写真を探しています。昔の立川・砂川を写した写真をお持ちの方はぜひ市史編さん係にお知らせください。また、撮影した当時の思い出やエピソードをお聞かせください。